

# 日本パビリオン出展について —MWC Barcelona 2025レポート—



森田テック株式会社 営業推進 さ え き 佐伯 あきのり 明徳

当社はこれまで高周波関連の顧客ニーズに対応する中で様々な技術を学んできた。一例として、第3世代移动通信システム（3G）以降における移動体通信分野で各キャリア様及び基地局メーカー様などからの厳しい要求にお応えするという研鑽の場を経ることで、第5世代移动通信システム（5G）世代でのニーズとして『無線による近傍での相互接続試験』が非常に大きな課題になってくることが予想された。そこで、近傍で電磁波の相互接続試験が実現できるアンテナカプラや検査ユニットを開発することになった。

この近傍で電磁波の相互接続試験が実現できる検査ユニットは国内キャリア様から思いのほか高い評価をいただいたことで、「同様のニーズは海外にもあるのではないかと、その仮説を検証する場としてMWCに出展したい」との強い思いを持つこととなった。しかし、コスト・人材等の面で中小企業の力不足ゆえ気持ちが悪くなるばかりの時間が過ぎてしまった。

そうした中、2022年8月に総務省施策「JAPAN Pavilion 出展支援」を知り、勇躍応募させていただいたところ、光栄にも採択していただき初出展の運びとなった。ただ、MWC2023では遡及ストーリーも稚拙で「出ただけ」の情けない結果を認めざるを得なかった。そこでの反省をふまえ英語版HP作成や、動画での製品説明ができるYouTubeなどを生かしてMWC2024に再挑戦させていただいた。MWC2024では一年かけた準備が奏功し、米国最大手携帯端末メーカーが当社のブースを目指してお越しください、「MIMO\*1 OTA試験\*2用ユニットFS-2310」の新規引き合いを受けることができた。

この商談の成約には、海外取引ゆえに物づくり以外にも困難な課題があったがJETROをはじめとした各方面の支

援機関にご協力いただき、2025年2月納品に漕ぎつけることができた。

MWC2025にも出展を認めていただいたが、過去2回での出展の経験が大いに生かされ、世界中から約60社以上の方々との名刺交換の機会をいただけることになった。今年は特に北欧の通信関係企業を始め多くの引き合いをいただけるようになり、現在成約に向け営業対応を進めているところである。

さらに、MWC2025では、国内メーカーの海外拠点の会社からも当社のブースにお越しいただき、自社製品のバリューアップ商財として当社の製品を評価いただいたことが



■ 図1. 森田テック展示ブース

\*1 MIMO (Multiple Input Multiple Outputの略)

無線通信において、送信機と受信機の双方で複数のアンテナを使い、通信品質を向上させることをいう。スマートアンテナ技術の1つである。

\*2 OTA試験 (Over-The-Air試験の略)

空間に電波を飛ばして行うテストのこと。これは、有線によるテストと比較して、実際の利用状況に近い方式のテスト方法。OTA試験は、主に4Gや5GスマートフォンやIoT機器の無線性能を評価するために行われ、通常は電波暗室などの特別な環境で実施される。



特筆すべき成果となっている。これらの引き合いを成約に結び付けることにより、当社製品の魅力が国内本社にもフィードバックされ、新たな商流・更なる販路拡大につながることを期待している。

今年のMWC2025展示品としては、「近傍で電磁波の相互接続試験」が実現できるアンテナカプラを組み込んだ「MIMO OTA試験用ユニットFS-2310」を展示した。基地局シミュレータの測定器と接続することにより簡単に省スペースな環境でプロトコル試験や最大スループット通信試験が実現できる検査システムである。

現在、5G/6Gモバイル通信の実用化に向けて、「OTA試験環境」の整備が課題となってきている。当社製品群は、従来の巨大な電波暗室や大型電波暗箱に代わり卓上規模でのOTA試験を可能にしている。「近傍で電磁波の相互接続試験」が実現できるFS-2310は、MIMO試験用アンテナカプラを用いるコンパクトなOTAシールドボックスであり、各種OTA試験（4×4MIMO、8×8MIMO、EN-DC、NR-DC）における最大スループット通信試験、プロトコル通信

試験、端末と基地局間のハンドオーバー試験などを容易に実現できる画期的な検査システムである。

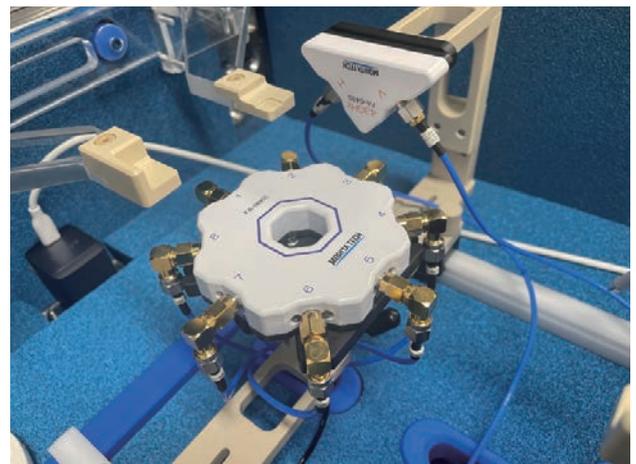
当社にとり大きな転機となったMWC出展だが、中小企業の脆弱な資源では実現困難であったことは間違いなく、総務省施策に採択・後押しされ日本ITU協会様はじめ、関連各機関の支援で実現できたと考える。一方、認知度の低い中小企業が海外展開の基盤を安定させるには継続的な出展が不可欠であるとも感じており、当施策の継続・拡充を要望する次第である。



■図2. FS-2310 MIMO OTA試験ユニット



■図3. 各種アンテナカプラ



■図4. 試験ユニット内アンテナカプラ